

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内の職員の目に付くところに掲示されていて確認できている。設立5年たちました。職員の入れ替わりもあったので、新人研修にも取り入れ共有している。	事業所独自の理念を掲げており、理念の実践ができるよう玄関・事務室にも理念を掲示し、新人研修でも理念を周知する機会を設けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様の行事参加は、夏祭りが一番ですが、職員は色々の行事に参加し、町内の方と一緒に活動している。防災の面でも施設の中の様子を知ってもらう為、消防団員に来ていただいている。ベルマーク収集やアルミ缶収集等子ども会にも協力している。	地域の納涼会や運動会に参加したり、事業所が主催で認知症に関する研修会を開催し地域の方にも参加していただきました。また、地域の清掃活動やアルミ缶収集にも協力するなど、積極的に地域とのふれあいが心がけられています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は第2回目の、「認知症を正しく理解するため」の講演会を開きましたが、行事が重なった為か参加者は昨年を下回った。市内遠方から参加された方が居り、1人でも正しい理解が深まれば無駄でないことを確信した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回必ず行っている。相変わらずこちらからの一方的な報告が多い。	運営推進会議は町内会長、ご家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員、市の担当者、社会福祉協議会職員から出席してもらっています。参加者へ事業所の活動報告や事故報告を行い、会議で頂いた意見はしっかり受け止めて向上するように努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	解らないことはすぐに聞いて対応している。推進会議ではアドバイザーとして参加していただいている。事故報告等は、必ず報告して指導を仰いでいる。	市の担当者、地域包括支援センター職員には運営推進会議にも参加していただいております。アドバイス頂いているほか、事故報告や不明な点について連絡を取り連携が図られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊をする方が入所されたが、最近あまりひとりで行動されることがなく、リビングで職員が常に気をつけて見守り、事務室でも職員が居れば、見ているので殆ど施錠をしない。事務所が留守になる時間帯は、風除室の中側を施錠する。	事業所として身体拘束は行わない方針のもと、事業所でも身体拘束に関する研修を行い、職員の理解も深めるようにしています。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	日頃から利用者の関わりについて話し合い、ミーティングにて意見交換や確認を行い、防止に努めている。内部研修にも取り入れ発表してもらい、外部研修にも参加し、学ぶ機会を作っている。	職員が虐待防止に関する外部研修に参加し、ユニット会議で他の職員にも研修内容を周知し、虐待の防止を徹底しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会で学ぶ機会を持ち、活用できるよう知識を見につけるよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約内容を解りやすく説明の上、納得いただいた上で、契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、不満を聞き、スタッフ間で共有、又家族カンファレンス時の意見、要望を聞きサービスに努めている。	運営推進会議の場だけでなく、面会時や電話連絡の際などに気付いたことや要望は無いか確認しています。	定期的にご家族との交流を図れるように、家族会を開催される等の検討を行われることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	6月、12月全体会議を設け運営に対する会議を行う。アンケートをとったりして議題の収集に努めている。要望については、出来る事から確実に実行されている。	毎月のユニット会議で意見や要望を確認しているほか、管理者は日常の業務の中でも職員からの意見を確認しています。また、本社の部長が年に2回定期的に面談の機会を設け、職員の意見を踏まえた環境の改善に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の改正にて、65歳定年が60歳定年、又規則改正にて給料面でも大幅に変更になった職員もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修については、今年度からユニット会議の時30分テーマに沿って自分で勉強したことを発表することにし、3回実施した。外部研修の機会も増やし、職員も積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	個人ではあるが、介護福祉士の集まりで交流はしている。勉強会にも参加している。これから入会者を多くして会を利用して勉強会に参加していきたい。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、ご家族、ご本人に施設の説明・出来れば見学を進めている。入所後は、共に過ごす時間を作り不安のないよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望・不安を伺い納得いくまで話を聞き、不安を取り除くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に暫定プランを示し、ご希望があればそこでプランに組み入れる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく生活場面を通じて、支え合う関係であるよう一緒に笑い、一緒に悲しみ、信頼関係を作っていく。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族との絆は、切り離して幸せはない。ご家族と当施設は、いつも相談しながら目的を共にして支援している。	年に4回の事業所広報の送付や、毎月居室担当職員からご利用者の生活の状況をまとめたお手紙を送るなどの情報提供を行い、一緒に支えあうことができるよう関係づくりに努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のお客様は、大切にそしてゆっくり過ごしていただけるように気を配っている。	知人や親せきの方から面会に来ていただいたり、ご家族の支援のもとお墓参りに行かれるご利用者もいるなど、なじみの関係が継続できるように努めています。	ご利用者の馴染みの関係を継続できるよう、ご利用者の要望に合わせた個別の外出支援を取り入れるよう検討されることを期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係をよく把握して、職員が間に入って上手くいくようパイプ役になり、見守り、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望があれば支援している。。他施設へ移られた方入院のため退所された方には、機会を作りお顔を見に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別処遇が基本なので、出来る範囲で対応している。ご本人の意に合わないことは良かれと思っても職員は強制せず、共通理解をもって支援している。	日々のケアの中での表情や会話の中から思いの把握が行われています。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から話を聞き、少しでも今までの生活の延長で生活ができればと努めている。	ご本人やご家族からの聞き取りにてこれまでの暮らしの把握が行われ、ご本人の生活歴や嗜好を確認しています。また、日々の生活で得られた情報についても定期的に情報の更新も行っています。	ご利用者の情報をより把握できるように、生活歴やこれまでの暮らし方に関するシートの作成も検討されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の生活リズムが出来ているので、そのリズムに合わせてできることはやっただき、お手伝いすることは手伝って、ご本人が快適に過ごせるよう支援する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族カンファレンスの声かけに参加していただかず郵送になってしまうことが多い現状である。職員は細かくアセスメントをし、問題点を把握してプランを作成している。担当者会議には、関わる職員全員が参加してカンファレンスを行っている。	介護計画に関しては6ヶ月毎の短期目標を設定し、3ヶ月毎に定期的に評価も行い、ご利用者・ご家族からの要望も確認し、介護計画の見直しもされています。	調査時点で3カ月に1度のモニタリングが行われていなかったご利用者もいるので、全てのご利用者に対して定期的にモニタリングが行われることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別生活記録、申し送りノートで日々の様子を記録し、職員間で共有し把握。状態変化時の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望等には柔軟に対応するようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防団の方には、来ていただいて施設の中の様子をみていただき緊急時の対応をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人とご家族が希望される医師に雇っている。嘱託医の場合月2回の往診がある。緊急時には往診もしていただける。	かかりつけ医はご本人の希望するかかりつけ医となっており、ホームに往診も来て頂きます。受診時は原則ご家族が付き添いますが、必要に応じご利用者の情報をまとめた資料を医師に渡すなどの情報提供も行っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は居ないし、訪問看護も入っていないので嘱託医に全て相談にのってもらっている。薬については、にしわき薬局さんに相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されると1週間くらいで、御見舞いに行く。ソーシャルワーカーさんと病状のこと、退院の見通し等を聞く。退院時には介護職員と一緒にいって、退院指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りができないことを話してあるので、ご家族はすでに承知である。しかし次の所の準備ができるまでは出来る限り支援をしている。	入所の際にホームでできることを伝え、看取りは行わないことを説明しご家族にご理解いただいています。	事業所としての重度化した際の対応の方針をまとめ、ご家族に説明しやすいように検討される事を期待します。
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使い方、救命救急法の講習も受けており、救急時に対応できるように訓練をしている。	消防署員に来て頂き事業所にて救命講習を行い、急変時に適切な初期対応ができるようにしています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練を実施している。緊急連絡網も施設内に掲示してある。居室には、ヘルメット・タオル・鏡のところにご本人の搬出方法の紙が張ってある。備蓄品も用意してある。	年2回、地震や夜間の火災を想定した避難訓練を行っており、地域の消防団にも参加してもらっています。また、災害時に備えて、非常食の確保もされていました。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう言葉かけや対応をしている。	プライバシーや自尊心を損ねないよう対応に努め内部研修で発表を行っている。	言葉かけ等が馴れ合いにならないよう、ご本人の人格を重視したケアが行えるよう徹底されています。また、広報への写真の掲載についても書面で同意を得ています。	広報の写真の掲載については、広報を地域に回覧することも説明した上で同意を得られるように検討されることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	わかる言葉で。話し掛け、意思疎通を図り、自己決定できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその人らしい生活リズムを大切に自分のペースで生活が送れるよう、自分がやりたいことをしていただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月1回理容師がきて希望するカットをしていただく。髪を染めたい、パーマをかけたい希望もできた。美容院へお連れしたり、職員が毛染めの手伝いをしたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備等職員と一緒にできる範囲でお願いしている。時には、畑でとれた野菜で調理・収穫のよこびを味わっている。	ご利用者のできる範囲で、調理の下準備や、後片付けも行ってもらっています。また、事業所の畑でもさつまいもやじゃがいもなどの野菜をつくっており、収穫や調理をご利用者と一緒に楽しんでいます。また、外出行事に合わせて、近隣の食事処への外食支援も行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士に献立を立ててもらい、バランスのとれた食事を摂取。1日中自由に水分摂取していただけるようリビングテーブルにポットが用意されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促しており、一人ひとりの状態に応じて見守り介助を行っている。夕食後は、義歯洗浄液にて浸し、対応している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表をつくり、一人ひとり排泄パターンを把握、困難な方は、声かけ誘導実施。失禁をなくし、生活の質を上げるよう努めている。	ご利用者全員に排泄チェックを行ない、一人ひとりに合わせた適切な誘導、支援をしています。職員のさり気ない見守りや声かけで気持ちよくできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操・掃除・レクにて体を動かしていただき、排便を促すよう支援している。又水分不足にならないよう、少ないような方には声かけし、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を実施しているが、ご本人の希望や体調により、入浴日の変更をしている。できるだけご本人の希望の時間帯に、希望があれば2回と言わず入浴していただいている。	ご利用者の希望に添った時間帯に合わせて入浴支援しており、前回の課題であった入浴チェックもしっかりと行われていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり休憩の時間が違う為、個々のペースにて休息をとって頂く様努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を保管し、内容・内服量・副作用について確認できるよう職員全員がわかるようになっている。変更時には、送りノートに記載し共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの希望、力を活かし、洗濯物干し・洗濯たたみ・テーブル拭きなど、できることをしていただき、職員は感謝の気持ちを忘れずに対応している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節・その日の天気にあわせ、散歩・日光浴を。出来るだけ外へ出て頂くよう努めている。車でも外出の機会を増やせたらよいと思う。冬は殆どないので自宅への外泊や外出を支援している。	天候に合わせてご利用者と一緒に散歩に出かけたり、季節に合わせたお花見や紫陽花見学などのイベントとしての外出も実施しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から預かり金として預かっている。お店が近くにないので、職員がその方の必要な物を買ってくる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に応じて電話はかけてもらっている。年賀状は書いていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには、花や植物を置き、季節感を味わってもらえるよう努めている。居室等の温度・湿度を調整して快適に過ごしていただけるよう支援している。	飾られている写真やご利用者の作品も季節に合わせてあります。共有スペースにはソファも置かれており、ご利用者同士がゆっくりとテレビを見れる環境になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・小上がりのたたみコーナーを設け一人ひとり、自分のペースにて好きなように自分の時間を過ごしていただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド・キャビネットご自分で使いやすいように配置され、馴染みの家具などに囲まれて居心地よくしていただいている。殺風景な玄関にも花のプランターをおいて彩りをつけている。	居室には、ベッドやテレビ、コタツなど、自宅から持ち込んでもらっています。また、ホームでの写真やご家族の写真、カレンダーを飾るなどして、その人らしい部屋作りの工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置など、自立した生活ができるよう、配慮をしている。トイレ・ご自分の居室がわかるよう表示しています。		